



イスラエル人とパレスチナ人を治療してきたイゼル・デイン・アブエライシユ医師。自らを襲った悲劇を平和のメッセージへと転じ、世界に向けて発信する同氏が広島で語った平和への思いとは。

# 「それでも、私は憎まない」

## 悲劇を平和へのメッセージに転じたガザの医師 イゼル・デイン・アブエライシユ医師講演会in広島



イゼル・デイン・アブエライシユ医師

### 砲撃で奪われた娘たちの命

二〇一七年一〇月二十九日、現在カナダのトロント大学で准教授を務めるイゼル・デイン・アブエライシユ医師が広島を訪れた。広島は初の訪問となる。この日、原爆慰霊碑への献花と原爆資料館の見

学を終えた同氏は、広島市の教育関係者が主催する講演会に登壇し、広島に立つて感じた平和への思いを語った。一九五五年にパレスチナ暫定自治区の行政区画であるガザ地区(以下、ガザ)の難民キャンプで生まれたアブエライシユ氏は、奨学金を受けて大学に進み、ロンドン大学産婦人科学研究所で学位を取得。一九九七年にイスラエル初のパレスチナ人研修医となり、パレスチナ人とイスラエル人の双方の治療にあたった。政治的に分断に追いやられた地において、アブエライシユ氏は医学を通じて橋渡しをしていくことに尽力した。

そんな同氏を突如として悲劇が襲う。妻を病気で亡くしたそのすぐ後、二〇〇九年一月六日、イスラエル軍による砲撃によって三人の娘と姪の命が奪われたのだ。

### 憎しみは自己破壊的な病

ガザの人々の間に報復と憎しみが広がる中、アブエライシユ氏は報復を求めもしなければ憎しみに駆られることもしなかった。

それはなぜか。アブエライシユ氏は以前に、あるインタビューの中で次のように語っている。

「『憎しみ』とは、自己破壊的な病です。治療と平和を妨げます。だ



本体1,900円+税、亜紀書房